

2019年2月8日

富士フイルムホールディングス株式会社

2019年3月期 第3四半期決算説明会 主な質疑応答

Q: 3Q計画に対する事業別の営業利益遂行状況はどうだったのか。

A: 営業利益について、全体では計画通りに進捗している。イメージングはやや未達となったが、ヘルスケアはメディカルシステム事業や CDMO 事業の増収に加えて、医薬品の収益性の改善が進んだことで計画を過達。マテリアルズ、ドキュメントについては計画通りの進捗となった。事業によって濃淡はあるが、各事業が着実に稼ぐ力をつけており、全体では計画を達成した。

Q: チェキの販売が好調な一方で、イメージングソリューションの営業利益が9ヶ月累計で減益となっている理由を教えてください。

A: 先ず、チェキの販売は非常に好調で、3Q(3ヵ月)で500万台、9ヶ月累計では850万台の販売実績となった。3Qから本格展開しているテイラースイフトさんを起用したプロモーション効果もあり、欧米を中心に各地での販売が好調に推移した。一方で営業利益については、販売促進費の増加や、新製品開発費の増加等の影響を受け、全体では対前年減益となった。

Q: 電子材料事業の売上が好調だが、足元では半導体市場の減速感が見られる。今後の成長性をどう考えているか教えてください。

A: 足元で特に減速感が見られるのは半導体市場の中でもメモリーだと思うが、その他にもロジックやセンサーなど様々な種類があり、当社は豊富なラインアップを有し、これらのデバイスに供給している。半導体市場は、中長期的には5Gや自動運转向けに需要が広がり、今後も確実に伸びていくことは間違いない。当社は、当事業を売上、利益の成長ドライバーとして位置付けており、米国拠点に2018年12月から3年間で約100億円の設備投資を行うことを決定するなど、事業拡大に向けて積極的に取り組んでいる。

Q: 富士ゼロックスの構造改革の進捗状況を教えてください。

A: 非常に順調に進捗しており、営業利益は9ヶ月累計で対前年+82%の大幅増を達成した。また構造改革効果だけではなく、原価率を約3%低減させるなど収益性を大きく向上させている。

Q: ゼロックスコーポレーションとの統合計画についてアップデートがあれば教えてください。

A: もともとゼロックスコーポレーションからの申し入れでスタートした話であり、統合はベターであるがマストではないという当社のスタンスはこれまでと何ら変わっていない。ゼロックスコーポレーションとの関係が現状通りでも、今回の決算発表でご説明した通り、富士ゼロックス単独で収益力を大幅に高めている。

以上